

経営比較分析表（令和6年度決算）

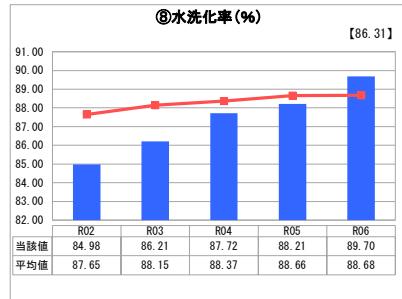
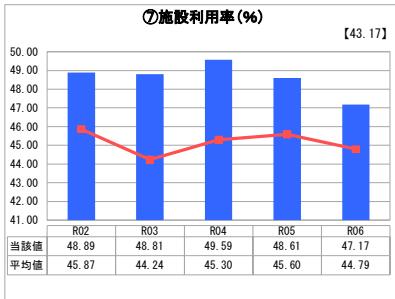
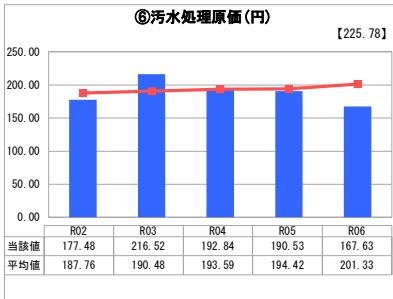
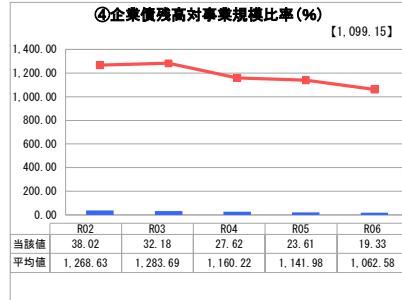
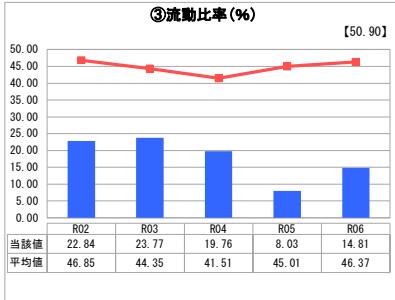
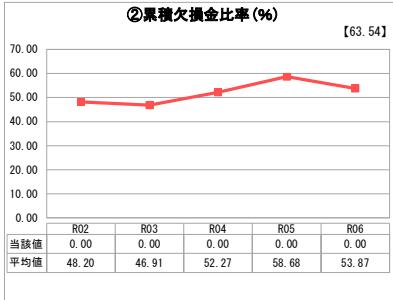
群馬県 沼田市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	62.49	13.02	97.62	2,780

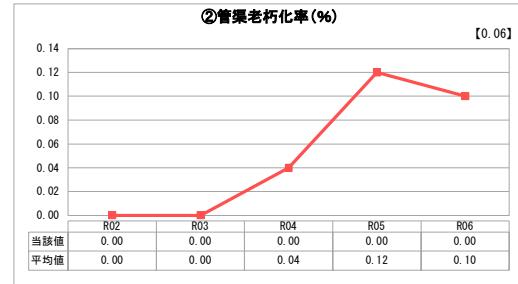
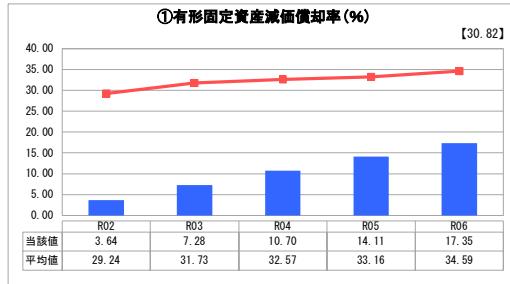
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
43,532	443.46	98.16
處理区域内人口(人)	處理区域面積(km ²)	處理区域内人口密度(人/km ²)
5,621	3.97	1,415.87

グラフ例
■ 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
□ 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



* 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみの類似団体平均値及び全国平均を算出しています。

分析欄
1. 経営の健全性・効率性について
①100%は超えているものの、類似団体との比較では低く、また、営業外収益に占める一般会計補助金の割合が高い状況であるため、使用料収入の確保に努めていく必要がある。 ②累積欠損金は発生していない。 ③前年度と比較して改善しているものの、企業債の元金償還が多く、現金預金が少ないため、類似団体平均値と比較して著しく低い数値となっている。企業債の償還が進む中で、新規の借入を抑制していく必要がある。 ④近年は、企業債の償還額が借入額を上回る状況が続いているが、数値は改善傾向にあるが、引き続き、企業債の新規借入を抑制していく必要がある。 ⑤前年度までの処理場施設における大規模修繕に自力が立ち、今年度は汚水処理費が下がったため、類似団体平均値との比較においても高い水準まで数値が回復したが、引き続き使用料収入の確保に努めていく必要がある。 ⑥修繕費用の減少等により数値は改善傾向にあるが、安定的に低い水準となるよう、引き続き維持管理費の削減に努める必要がある。 ⑦類似団体平均値と比較し若干高い水準にあるものの、近年は50%前後で推移しており、施設の処理能力に余裕が生じている。 ⑧法適化して5年目のため、数値自体は低い状況であるが、実際は整備後に35年以上経過する償却資産もあることから、計画的な管渠更新を検討する必要がある。
2. 老朽化の状況について
①法適化して5年目のため、数値自体は低い状況であるが、実際は整備後に35年以上経過する償却資産もあることから、計画的な管渠更新を検討する必要がある。 ②(3)川田処理区が昭和62年4月、白沢処理区が平成12年4月、利根処理区が平成13年6月に供用開始しており、川田処理区については、供用開始後35年以上経過しているため、管渠の更新投資や老朽化対策が近い将来必要となる。また、白沢処理区、利根処理区については、早い段階から将来を見据えた対策を検討する必要がある。
全体総括
経営指標数値については、前年度と比較して改善した項目があるものの、類似団体との比較では低調な項目が多い。これは、企業債の償還等に対する一般会計繰入金への依存度が高く、また、汚水処理費用の効率化が不十分であることに起因している。そのため、維持管理費を中心としたより一層の費用削減を図る必要がある。 今後、施設の老朽化対策が急務となるため、ウォーターピーPPI導入や経営戦略を見直したうえでの使用料改定を検討していく必要がある。